

もくせい通信

木津川市立相楽台小学校

令和8年7月17日（金）

令和8年度 研究主題

主体的・協働的に学ぶ対話学習

～豊かな想いを豊かな言葉で～

7月1日（水）5時間目、2年2組で国語科「あったらいいな、こんなもの」の研究授業が行われました。

本単元では、相手の考えを詳しく知るために、大事なことは何かを考えて質問することをねらい、ペアトークを繰り返しました。



子どもたちは、自分が「あったらいいな」と思うものを事前に描き、それを見せながら、友だちに「あったらいいな、こんなもの」を伝えました。聞いた子は、「どんな」「どのくらい」「どうやって」「なんで」などのキーワードを使いながら質問を繰り返しました。

子どもたちの「話したい!」「聞きたい!」が溢れており、生き生きと活動する姿が見られました。



授業研究会では、以下の視点で参観したことを、グループに分かれて研究討議をしました。

相手の考えを引き出す質問について、キーワードを活用したり、説明に応じて質問を工夫したりしながら、対話を成立することができているか。

- ・キーワードの提示が効果的であり、話型を決めなくても対話ができている。
- ・複数の子と交流することが有効であった。
- ・板書の重要性。視覚的な支援になる。



最後に、「学習する単元で、どんな力をつけるのかを明確にすることが大事」であり、子どもにもそれを明示し、目的意識を持たせて活動することが大切であることを再確認し、明日からの各教科指導に生かしていこうと締めくくりました。

